

証券市場新聞

1 第167号

日経平均株価

2万0900円63銭

▼239円08銭(前日比)

TOPIX

1577.29

▼12.52(前日比)

2019
2/18
月曜日

発行元 株式会社 証券市場新聞社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



IPO春の陣、昨年末
のような波乱はない？

昨年12月のIPO一経平均が1万9000円を割れ、暴落し、大型上場のソフトバンクがIPOに際しては市場全体の需給に影響を与えるような大型相場はなく、全般的にIPOはそれほど高く評価される可能性は低い。加えて、仮に公開価格割れとなっても、企業実態から割安感が高い銘柄は売り一巡後に戻す

昨年12月のIPO一経平均が1万9000円を割れ、暴落し、大型上場のソフトバンクがIPOに際しては市場全体の需給に影響を与えるような大型相場はなく、全般的にIPOはそれほど高く評価される可能性は低い。加えて、仮に公開価格割れとなっても、企業実態から割安感が高い銘柄は売り一巡後に戻す

昨年秋のような波乱ない

第3四半期決算が一巡し、手掛かり材料難となるなかで、次の市場の関心はIPO(新規公開株)に向かいそうだ。20社近くが上場した昨年末のIPOラッシュ時ほどの話題にはならないかも知れないが、2月22日の識学(7049)から3月19日のKHC(1451)まで15社がIPOを予定している。東証1部の主力銘柄の上値の重たさが目立つなかで、業態と成長への期待が高まれば初値形成後は格好のデイトリング銘柄になる可能性があるだろう。

「ず儲かるといふ神話」は崩壊した。ただ、22日以降のIPOに関してはソフトバンクのような市場全体の需給に影響を与えるような大型相場はなく、全般的にIPOはそれほど高く評価される可能性は低い。加えて、仮に公開価格割れとなっても、企業実態から割安感が高い銘柄は売り一巡後に戻す

どうなるIPO春の陣？

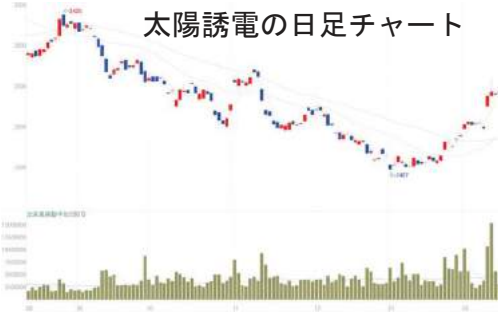
識学やスマレジなどが話題に

すケースが多い。その一例は12月21日上場の自律制御システム研究所(6232)で、公募価格3400円に対し、初値は2830円。その後は2月1日に4180円の高値を付けている。22日公開の識学は、組織コンサルテ

28日公開のスマレジ(4431)はiPadやiPhoneを使った、高機能かつ低価格なPOSレジとして、飲食店などへの普及期待が高い。3月13日公開でAmazon Web Services(AWS)のインフラ基盤構築などを行うサーバーワークス(4434)あたりが業態的に物色対象になりそうだ。

日経平均日足チャート





太陽誘電の日足チャート

太陽誘電はS高

3Q62%増益で自社株買い

8900万円(前年同期比61.8%増)と大幅増益で着地、期末配当を10円から11円に引き上げ、併せては発行株の1.6%に当たる2

週明け12日、太陽誘電(6976)がストップ高。19年3月期第3四半期累計の連結決算は、経常利益267億

00万株、30億円を上限とする自社株買いを発表した。通期計画の300億円(前期比46.0%増)に対する3Qの進捗率は89.3%に達し、上振れが期待された。

大井電大幅赤字に

12日、大井電気(6822)が急落、一時ストップ安まで

売られた。19年3月期の連結業績予想を下方修正、売上高を240億円から225億円(前期比)へ引き下げ、最終損益を2億円の黒字から25億円の赤字(前期1億1600万円の赤字)へ一転して大幅赤字を見込んだ。自然災害により電力会社の設備投資が延期になったこ

サニーサイド営業益3.1倍

13日、サニーサイドアップ(2180)がストップ高まで買われ、昨年来高値を更新した。19年6月期第2四半期累計の連結決算を発表。売上高は74億800万円(前年同期比8.2%増)、営業利益は4億7700万円(同3.1倍)、純利益は4億1300万円(同8.6倍)と大幅な増益となった。マーケティング

グ・コミュニケーションとスポーツ事業が伸び、SP・MD事業の業績が回復した。通期は売上高150億円(前期比10.8%増)、営業利益5億円(同40.7%増)、純利益3億2300万円(同15.1%減)と従来見通しを継続

はストップ高。新川(6274)が同社株に対してTOBを実施すると発表したことを受け、TOB価格570円にサヤ寄せするかたちで水準を切り上げた。ヤマハ

13日、アピックヤマダ(6300)

はストップ高に買われた。アピックヤマダ(6300)

今週の動意銘柄

とや大口の特定小電力無線装置の失注などで売り上げが計画を下回り、人件費や外注費が損益を圧迫さらに、独占禁止法関連損失引当を特損として計上することから最終段階にかけ赤字幅が広がる。損益悪化に伴い50円と見送った期末一括配当を見送り、8期ぶりの無配とした。

正直いいさんの株で大判小判

15日の東京市場は大幅続落、日経平均は2万1000円を割り込みました。12月の米小売売上高悪化を受けてNYダウが下落、為替が円高方向に振れたことが嫌気され、先物主導で値を崩す展開になりました。トランプ米大統領がメキシコとの国境の壁建設費捻出の態宣言をすると伝わったことも投資家マインドを冷やして、日経平均は5日線をおり、好決算発表銘柄別に物色意欲は旺盛でも下値を売り叩く動向では過度に不安視する必要があります。当面は好業績のいい中小型株の個別物色。アンリツ(6754)は追撃買い、ハリマ化成(4410)やカプコン(9697)も押し目狙い。14日ストップ安のメデイシノバ(4875)は900円台まで短期回復を期待しています。花咲翁



キャリアイン低進捗

14日、キャリアインデックス(6538)が急落、一時ストップ安まで売られた。19年3月期第3四半期累計の連結決算は、営業利益は6億5700万円

(前年同期比21.1%増)と大幅増益で着地した。ただ、通期計画の10億1000万円(前期比32.7%増)に対する進捗率は65.6%にとどまり、収益下振れを警戒した売りが膨らんだ。

企業観察

日本トリム (6788)

世界的メディカル企業へ

日本トリム(6788)は第3四半期累計(2018年4月〜12月)で連結売上高115億7400万円(前年同期比10・0%増)、営業利益18億9200万円(同22・7%増)と大幅な増収増益を達成、19年3月期通期の売上高154億3000万円(前期比10・0%増)、営業利益24億4000万円(同51・9%増)予想達成へ向けて順調に推移している。

好調の要因はウォーターヘルス事業における整水器販売で同社の提案が企業から高く評価されていることだ。「体調不良やメンタル

「健康経営」で一括導入拡大

ヘルス不調などが原因で、従業員のパフォーマンスが低下するプレゼンティズム対策として当社の製品が受け入れられている」とし、「健康経営」を切り口とした企業への一括導入が拡大している。海外では、インドネシアのポトリングビジネスが現在フル稼働状態で増産も視野に入っている。

一方、国内最大の民間さい帯血バンクを運営するステムセル研究所では新規契約数が過去最高水準で推移している。中国での病院事業などを含めてグローバルなメディカルカンパニーとしての将来性を評価するならば時価は評価不足だ。

アトラエはストップ高

第1四半期50%営業増益

14日、アトラエ(6194)がストップ高。19年9月の第1四半期単体決算を発表。売上高は7億4900万円(前年同期比51・0%増)、営業利益は2億2500万円(同49・7%増)と大幅な増収増益となった。社成功報酬型求人メディア「Green」での様々

な取り組が寄与。



アトラエの日足チャート

通期は売上高30億(前期比30・1%増)、営業利益7億(同1・3%増)と従来見通しを据え置いた。

DSは3Q73%増益

14日、ダブルスタンダード(3925)がストップ高。19年3月期第3四半期累計の連結決算を発表。売上高は21億9500万円(前年同期比45・8%増)、営業利益は7億8400万円(同73・3%増)となったことが材料視と大幅な増収増益とされた。

自社株買い規制

先週の東京株式市場は2万1000円台を回復する局面がありましたが、75日線にタッチしたことで上値が重くなりました。終値は前週より上を取りましたが、週足ローソク足はほぼ十字足形成です。

問題は米国です。トランプ大統領が壁建設資金を捻出するために非常事態宣言をすとの報道や、与党共和党のルビオ上院議員が自社株買いに配当金並みの税金をかけて制限させるという法案を近く提出するといった報道があることです。

2017年の法人税減税以降、自社株買いが急増しており、ルビオ氏は内部留保を自社株買いではなく、設備投資に回すことを促し雇用拡大や賃金上昇につなげることを狙っているようですが、この

法案が可決されると米株は自社株買いに支えられてきた面がありますので、今後の動向には注意が必要です。

日々勇太郎



エムアップ計画超過

週末15日、エムアップ(3661)がストップ高。19年3月期第3四半期累計の連結決算は、営業利益3億4900万円(前年同期比43・0%増)と大幅増益で着地。通期計画の3億2500万円(前期比2・1倍)を3Qで超過しており、大幅な収益上振

今週の動意銘柄

れが期待された。同業のイープラスとの資本業務提携を発表したことも材料視。

インターアク希薄化

15日、インターアクション(7725)がストップ安。S M B C日興証券を割当先として新株予約権を発行すると発表したことを受け、株式価値の希薄化と需給圧迫を警戒された。潜在株式の割合は20・78%。

～決算情報～

グルメ杵屋

近鉄GHD

3Qで通期計画を超過達成

機内食、おせち好調で営業33%増

グルメ杵屋（9850）の19年3月期第3四半期累計の連結決算は、売上高315億900万円（前年同期比1.5%増）、営業利益8億600万円（同32.5%増）、最終利益4億4100万円（同6.9%増）と増収大幅営業増益で着地した。

主力のレストラン事業は前年同期を若干下回ったが、機内食が増収で収益性が大きく改善、おせちの製造受注が大きく増え、収益を押し上げた。ただ、前年同期に多額の有価証券売却益を計上していたことから、最終段階は小幅増益にとどまった。

通期は売上高407億600万円（前期比0.7%増）、営業利益6億9200万円（同24.4%増）、最終利益4億4300万円（同46.0%減）と従来予想を据え置いたが、営業利益は3Qで通期計画を超過している。

ハルカス効果で流通は好調

第3四半期前年同期並みで着地

近鉄グループホールディングス（9041）の19年3月期第3四半期累計の連結決算は、営業収益9163億8400万円（前年同期比0.2%増）、営業利益533億8800万円（同横這い）、最終利益339億500万円（同17.7%増）で着地した。鉄軌道は大阪北部地震や台風等の自然災害などの影響で減収ながら費用減少で増益を確保、不動産は賃貸物件が堅調で受注工事も増え増収となったが、若干利益率が低下した。あべのハルカスの貢献で流通が大幅増益となり、費用負担によるホテル・レジャーの減益をカバーした。

通期は営業収益1兆2380億円（前期比1.2%増）、営業利益640億円（同1.0%減）、最終利益330億円（同11.4%増）と従来予想を据え置いた。期末一括配当50円を継続する。

クボタ

フジコー

海外は機械で大幅増収へ

19年12月期5.6%営業増益予想

クボタ（6326）の18年12月期連結決算は、売上高1兆8503億1600万円（前の期比5.7%増）、営業利益1893億1400万円（同5.3%減）、純利益1385億9500万円（同3.3%増）だった。年間配当は34円（前の期32円）。

国内は官公需関連を中心とする水・環境部門が減収となったが、農業関連商品やエンジンなどを中心に機械部門が伸長した。

19年12月期は売上高は1兆9700億円（前期比6.5%増）、営業利益は2000億円（同5.6%増）、純利益は1450億円（同4.6%増）を見込んでいる。

国内市場では、環境関連製品を中心に水・環境部門が大きく増加するほか、機械部門も増収が予想される。海外市場でも、機械部門が北米やアジアでの大幅な増収を見込んでいる。

エネルギー資材販売は好調

第3四半期900万円の営業赤字

フジコー（3515）の19年3月期第3四半期累計（2018年4月～12月）の連結決算は、売上高65億2600万円（前年同期比4.8%減）、営業損益は900万円の赤字（前年同期2億5500万円の黒字）、最終損益300万円の赤字（前年同期2億2000万円の黒字）だった。

環境資材については、販売先の在庫調整の影響を受けているが、エネルギー資材の販売は好調に推移した。

通期業績は売上高を92億円から91億円（前期90億9700万円）へ、営業損益で1億5000万円の黒字から1000万円の赤字（同3億4000万円の黒字）へ、最終損益を1億8000万円の黒字から2500万円の赤字（2億8500万円の黒字）へ下方修正している。

潮流

日経平均は2万1000円台

不安押しのけて上昇基調強まる

marKet / bAnk



13日の日経平均株価の終値は2万144円と昨年12月18日以来約2カ月ぶりに2万

1000円台を回復した。ヘッジファンドが225先物を買戻していることが要因だ。

今年に入ってからヘッジファンドの買いが継続し、225先物とTOPIX先物の合計で1月は6283億円の買い越しとなった。また、日本株を取り巻く環境が変化している。バンクオブアメリカ・メリルリンチが12日発表した2月のファンドマネジャー調査によると、日本株を「オーバーウエートしている」とした回答から「アンダーウエートしている」を差し引いた値は、前月比11ポイント上昇し10%だった。さらに、日本株を「割高」とした回答はネットでマイナス100%。回答者全員が日本株を割安とみていることになる。

2月8日時点で、東証1部上場3月期決算企業の3Q業績が8割程度発表された。10～12月期は経常利益が前期比▼19.2%と大幅減益。通期予想を下方修正する企業も多いが当面株価は緩やかな上昇基調を続けるだろう。業績予想の下方修正は株価に相当程度織り込まれているとみられるため、更なる業績悪化懸念が株価を押し下げる展開は想定しにくい。ただ、2

019年1～3月期にかけても、景気は更に悪化する可能性があり、2019年3月期本決算においても、業績リスクに注意が必要だ。その不安を押しつけて株価の上昇基調が強まることも想定できる。

英政府は

3月29日までに議会や欧州連合(EU)と合意できなければ、貿易に通关手続きが生じて経済活動が乱れる「合意なき離脱」に陥る。しかし、野党・労働党が求めている離脱後もEUとの関税同盟に残るという案が残されている。最終的には合意なき離脱は避けられる可能性が高いと考えられる。なぜなら、英議会の過半数の議員は合意なき離脱を避けたい意向で、EU側も望んでいないからだ。英国のEU離脱問題が解消された場合は世界の株式市場が勢いを増して上昇することになる。さらに、米中の貿易戦争が終焉を向かえ、中国当局による景気対策の効果が発現し始めると共に、日本が議長国となって行われるG20サミット(6月28日～29日)では、政策協調の必要性を強調する声明が打ち出される可能性が高い。

潮流銘柄はラクオリア創業(4579)、デザインワン(6048)、デジタルガレージ(4819)。

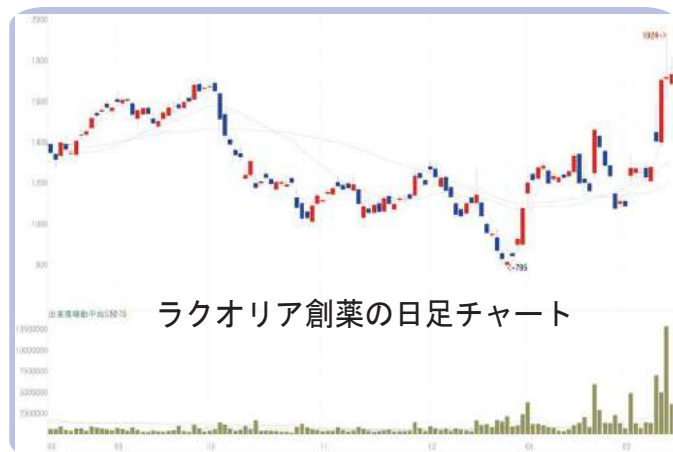
から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp



岡山 憲史氏(株式会
社マーケットバンク代
表取締役)のプロフイ
ール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中か

ヘッジファンドの買い継続



チャートから読む 騰落銘柄

パンチ工業 (6165)



第3四半期決算を受けて19年3月通期予想の上方修正期待高まる。2月8日の496円を底に出来高伴い上昇、昨年12月3日の661円を抜けたことで11月9日高値731円突破に期待が高まる。

リネットJP (3556)



好決算発表を機に買い気再燃。ネットリユース・ネットリサイクル事業による成長性へ評価高まる。5日線が再び鋭角的な右肩上がりへ転じ、青空相場を一段高へ。株価噴き上げのタイミングが近い。

GSIクレオス (8101)



2月4日に1347円まで上昇した後はジリ貧状態続く。昨年12月25日の安値1107円を下回れば1000円割れから中期的には16年6月の890円が視野に入る。15万8000株超の買い残も重石。

セガサミーHD (6460)



デジタルゲーム不振による大幅下方修正を嫌気、急落の後も下値模索続く。押し目買いに信用買い残が積み上がるなど需給も重荷で、急降下してくる5日線に上値を抑えられ一段安も。4ケタ割れ回避へ正念場。

※チャートは日足

今週の

活躍期待銘柄



MCJ (6670)

独自のPC戦略で業績拡大

MCJ(6670)の株価は18年12月25日の昨年来安値579円を底に一貫した上昇基調が継続、過熱感はなく昨年10月の揉み合いゾーンである1000円台までの上昇を期待したい。

19年3月期は第3四半期累計(2018年4月〜12月)の連結営業利益で68億3800万円(前年同期比14・3%増)と2ケタ増益を達成、通期予想の営業利益90億円(前期比5・8%増)達成へ向けて順調に推移している。PCは普及モデルの「mouse」ブランドと高付加価値・特化型の「DAIV」、ゲーミングPC「G-Tune」ともに好調を継続。

eスポーツ、AI開発など用途特化型の高機能PCに注力、国内最大規模の格闘ゲームの祭典「EVO Japan 2019」への出展など独自の戦略が注目される。(と)

1000円台まで上昇を期待



ハリマ化成G(4410)

3Q24%増益で上振れ濃厚

ハリマ化成グループ(4410)は好決算発表を機に買い気が再燃、切り返しから一段高へ向かってきた。

19年3月期第3四半期の連結決算は、営業利益38億1800万円(前年同期比23・9%増)と大幅増益で着地。製紙用薬品が2割近い大幅な伸びになったほか、印刷インキ用、塗料用樹脂化成品や印刷インキ用樹脂、ソルダペーパーや半導体用機能性樹脂など電子材料いずれも販売数量を伸ばした。通期計画の45億円(同12・2%増)に対する3Qの進捗率は84・8%に達し、収益上振れが濃厚。

現予想でPERは7倍台に過ぎず、年間配当34円(前期23円)で利回りは3%を上回る。発行株の3・84%、100万株の自社株買いも株価を押し上げた。昨年194円高値から194円本番だろう。(き)

PER7倍台、利回り3%上回る

※チャートは日足

低位好業績株を拾え

高野恭壽の株式情報 これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

日経平均は13日に2万1000円をアッパー抜けましたが、12月の米小売り売上高の予想外の減少と円安一服を受けて上げ一服状態となりました。

これまでは、半導体や電子部品などは好決算銘柄も業績悪銘柄も戻すという異常な展開で、日経平均が21000円を突破する動きになり、業績悪でも上げる動きは素材系などに広がりを見せ、石油化学などが上げられました。一方、内需系は好決算銘柄でも物色のホコ先があまり向かずに低迷状態でした。業績を無視し

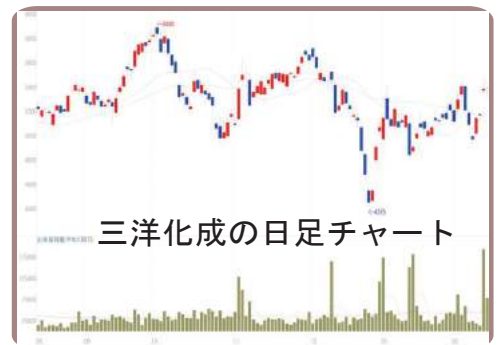
リチウム電池で三洋化成

無理が通って道理が引込まないことはいつまでも続くことはないとするのが自然な考え方です。それよりも低位系で好業績でありながら安値圏で放置されている銘柄を拾うべきで、筆者は双日(2768)、アイフル(8515)、日本冶金工業(5480)を勧めています。動きは緩慢ですが、下値を着実に切り上げていきます。中でも双日は420円前後のクドインゾンを突破しました。そのため、ヤレヤレ売りで反落しましたが、その売りが消化されて次第に上値を迫る展開に向かうものとみています。

同様の動きがアイフルやアコム(8572)にもみられるようになろうとしています。いずれ水準を上げていくとみています。冶金工業は収益力や配当状況から考えて235円はあまりにも不当な水準であり、水準訂正に進むものとみています。かつて、推奨を続けた大紀アルミニウム工業所(5702)も配当や収益力を考慮すれば割安といえます。冶金工業、大紀アルミが低迷

しては世界的なデフレ懸念から素材系企業の先行きに不安が底辺にあることが原因といえます。しかし、業績悪銘柄を買ってこれら好業績を維持している低位系を無視していいわけではありません。道理に叶った水準に向かうことになるでしょう。

内需系で運輸株は一服していますが、ヤマトヤマトホールディングス(9064)、SGホールディングス(9143)の1服場面は拾う作戦でいいとみています。穴株ですが、三洋化成工業(4471)が樹脂素材だけでリチウムイオン電池を開発し来年にも実用化する予定です。現在の金属利用が発火しやすいことを考えますと、将来この電池が利用される可能性が高いと思われれます。価格も安いし、出力のそん色ないことで有用とみています。アンジエス(4563)はセオリー通りの動きです。620円前後を拾うべし。



星野三太郎の株街往来

～育たない個人投資家～

昨年未の暴落からの戻りはニューヨーク市場に比べて鈍く、東京市場は混沌とした状況が続いている。戻りが鈍い要因は色々あるだろうが、改めて思うことは個人投資家が少なくなっていること。筆者の周囲でも暴落の度に株式投資をやる方は少なくなっており、先行きAIによる自動売買が席卷する

のでは危惧するほどだ。

そんなときに最近では放置状態にしていた対面口座の証券会社から電話が頻繁にかかってくる。以前は国債を勧めていたが、昨年夏に新たに担当になった営業マンは、最近だと、株主優待に手厚い企業を推奨してくれる。国債にしても優待銘柄にしても筆者の感覚では誰もがネットで調べれば、そのままオンライン証券で格安の手数料で注文できる。ひと昔なら独自のチャート分析力や情報で銘柄を提案してくる職人的な営業マンが多かった。筆者に電話をしていく営業マンも勉強熱心だが、北浜が全盛期だった頃と違う。個人投資家も育たないが、それを提案する側も育っていない。AIや独りで考えるネット取引だけでは個人投資家は増えない。原点回帰が必要だ。



積水ハウスオーナーでんき
SEKISUI HOUSE OWNER DENKI

積水ハウス（1928）は同社のオーナーから太陽光発電の余剰電力を買取り、自社グループの事業用電力として利用する「積水ハウスオーナーでんき」を開始する。

事前申込み受付を3月1日から始め、11月から事業を開始する。開始当初の電力買取単価は11円/kWhとし、買い取

りした電力は「RE100」（事業で使用するエネルギーを100%再生可能エネルギーで賄う取り組み）の達成のために有効活用する。

同社は、これまでに累計で700MW以上の太陽光発電システムを設置しており、その年間発電量は約700GWhに達する。これらの約2〜3割の卒FIT電力（固定価格買取制度の買取期間満了電力）を買取することで年間約120GWhの同社グループの事業用電力を賄うことができるという。

積水ハウス

事業用電力に利用

積水ハウスオーナーでんき

各種コーティング出展

トーカー

第3回次世代火力発電EXPO



ポイラチューブの耐久性向上させる溶射コーティング

トーカー（3433）は2月27日から3月1日まで

東京ビッグサイトで開催される第3回「次世代」火力発電EXPOに出展する。この展示会は「エネルギーマーケット」で実績がある。

この展示会は「エネルギーマーケット」で実績がある。この展示会は「エネルギーマーケット」で実績がある。

この展示会は「エネルギーマーケット」で実績がある。この展示会は「エネルギーマーケット」で実績がある。

この展示会は「エネルギーマーケット」で実績がある。この展示会は「エネルギーマーケット」で実績がある。



Week 2019」内で行われるもの。低炭素社会実現に向けて、高効率・環境負荷の少ない次世代火力発電システムの展示会ではそうした発電プラント建設・保守運用に必要な制御システム、エンジンリング技術、プラント部品、タービンボイラなどが一堂に出展される。同社はボイラ燃焼環境に耐えて、耐エロージョン性や耐高温腐食性を向上させる各種溶射コーティングやガスタービン静翼に遮熱層を設ける為の多孔質セラミックスコーティングなどで実績がある。

